

添付資料 2-1 <PDM2> (2009年7月)

プロジェクト名: チアパス州ソコヌスコ地域持続的農村開発プロジェクト (PAPROSOC-2) プロジェクト期間: 2006年9月 - 2009年9月
 対象地域: チアパス州ソコヌスコ地域全16市、対象グループ: 16市農村開発チーム、市持続的農村開発審議会アドバイザー
 C/P 機関: チアパス州農村開発局 (SECAM)、協力機関: 外務省 (SRE)、農牧農村開発漁業食糧省 (SAGARPA)、チアパス州立自治大学 (UNACH)、社会開発省 (SEDESOL)

プロジェクト要約	指標	入手段	外部条件
<p>上位目標 ソコヌスコ地域で展開した本プロジェクト活動が、持続的農村開発法 (LDRS) の適切な運用例として認められ、ソコヌスコ地域外において本プロジェクト活動をグッドプラクティスとした農村開発プロジェクトが実施される。</p>	<p>1. 当プロジェクトがLDRSの運用例として本プロジェクト外の会議で SECAM 及び関係機関によって3回以上紹介される。 2. LDRS に定められる持続的農村開発審議会 (GEDRS) において、当プロジェクトがLDRSの運用例として SECAM 及び関係機関によって報告される。 3. チアパス州政府が、ガイドラインに要約されているプロジェクトの手法をソコヌスコ以外の地域に適用する。</p>	<p>1. C/P インタビュー 2. C/P インタビュー、GEDRS メンバーインタビュー、GEDRS 議事録 3. C/P インタビュー</p>	
<p>プロジェクト目標 ソコヌスコ地域における16市が、公的支援プログラムを活用し、持続的農村開発法 (LDRS) 及び住民のニーズに即した農村開発活動を行う。</p>	<p>1. 16市におけるパイロットプロジェクト申請数。 2. SECAM、市持続的農村開発審議会アドバイザー、ODR、パイロット村住民のプロジェクトに関連する意識変容のレベル。 3. SECAM 局長による、ガイドラインの承認。 4. プロジェクトの経験をもとにした農村開発センターの実施。</p>	<p>1. C/P インタビュー、プロジェクト報告書 2. C/P、ODR、パイロット村の住民へのインタビュー、プロジェクト報告書 3. C/P インタビュー、プロジェクト報告書、議事録 4. プロジェクト報告書</p>	
<p>成果 1. 農村開発チーム (CDR) が、市持続的農村開発審議会アドバイザーの支援のもと、各市の持続的農村開発審議会 (CMDRS) において承認される。 2. CDR が、市持続的農村開発審議会アドバイザーの支援のもと、持続的農村開発法 (LDRS) 及び公的支援プログラム活用のための知識を備える。 3. SECAM 職員、市持続的農村開発審議会アドバイザー、ODR のメンバーが生活改善アプローチを介したプロジェクトサイクル運営手法を身につける。 4. 生活改善アプローチを介したプロジェクトサイクルの運営手法に係るガイドラインを作成する。</p>	<p>1. 16市中12市以上においてODRが承認される。 2-1. 研修への参加者数。 2-2. インタビューされた参加者の意識変容のレベル。 3. SECAM、市持続的農村開発審議会アドバイザー、ODR、パイロット村住民の意識変容のレベル。 4. 生活改善アプローチを介したプロジェクトサイクルの運営手法に係るガイドラインの作成。</p>	<p>1. CMDRS 議事録、C/P インタビュー 2-1. プロジェクト報告書 2-2. ODR インタビュー、プロジェクト報告書 3. C/P ODR、パイロット村の住民へのインタビュー、プロジェクト報告書 4. SECAM・JICA 間で確認の取れたガイドライン</p>	

活動	投入	日本側	ソノスコ地域において活用可能な公的支援プログラムが存在する
<p>(1)-1 持続的農村開発審議会 (CMDRS) の設置を提案して農村開発チーム (CDR) の設置を提案する。</p> <p>(1)-2 上記提案に関して各市長へ説明する。</p> <p>(1)-3 CMDRS において CDR の設置に係る承認を受諾する。</p> <p>(1)-4 CMDRS でパイロット村を選定する。</p> <p>(1)-5 対象グループを形成する。</p> <p>(2)-1 農村開発チーム (CDR) に対する、持続的農村開発法 (LDRS) に係る研修を実施する。</p> <p>(2)-2 CDR に対する、公的支援プログラムに係る研修を実施する。</p> <p>(3)-1 研修内容を準備し確認する。</p> <p>(3)-2 SECAM 職員、市持続的農村開発審議会アドバイザー、農村開発チーム (CDR) のメンバーに対する、生活改善の紹介を含めた、参加型農村開発を実施するためのプロジェクト手法に関する研修を実施する。</p> <p>(3)-3 簡易現状分析及び計画立案の研修をパイロット村で 0JT で実施する。</p> <p>(3)-4 パイロット村住民グループの組織強化ワークショップを 0JT で実施する。</p>	<p>投入</p> <p>＜メキシコ側＞</p> <ol style="list-style-type: none"> G/P 配置 <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトディレクター プロジェクト副ディレクター プロジェクトマネジャー 専門協力員 プロジェクト事務所専属の農村開発局 G/P (日本人長期専門家と協働) 事務員 <ul style="list-style-type: none"> 秘書 運転手 その他補助員 コミュニケーションサービスプログラム (学生による卒業前の実地研修) を通じた、チアパス州大学による制度的協力。 プロジェクト実施に必要な施設 日本人専門家や会合のためのプロジェクトオフィスその他資機材供与 電気、ガス、水、電話、インターネット等便宜サービス、その他プロジェクト活動に必要な調度品 その他合意に基づく資機材 日本側供与機材に係る付加価値税 	<p>＜日本側＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門家派遣 <ul style="list-style-type: none"> 長期専門家 <ul style="list-style-type: none"> リーダー/組織運営 業務調整 短期専門家 現地活動費 機材供与 (車両 2 台 他) プロジェクト実施に必要なその他の機材 	<ul style="list-style-type: none"> ソノスコ地域において活用可能な公的支援プログラムが存在する 農村開発が連邦及び州両政府の開発計画の一主要課題である ソノスコ地域が降雨により壊滅的な損害を受けない <p>前提条件</p> <p>16 市住民が本プロジェクトを受け入れる。</p> <p>州政府農村コミュニティ (CECAMPO) を通じて農村開発局が州政府他機関と連携する。</p>

<p>(3)-5 農村開発チーム (CDR) とパイロット村住民との協働によるコミュニティのニーズに基づく公的支援プログラムを利用した持続的農村開発プロジェクトを実施運営する。</p> <p>(3)-6 モニタリング評価研修を OJT で実施する。</p> <p>(3)-7 プロセスの意識変容のレベルを測るアンケートを実施する。</p> <p>(4)-1 市持続的農村開発審議会アドバイザーの支援のもと、農村開発の一例としてのプロジェクトの手法についてガイドライン案を作成する。</p> <p>(4)-2 SECAM 内で州レベルの最終的なガイドラインの内容を確認する。</p>	<p>子アパス州企画財務局は、PAPROSOC-2 を考慮し、ソコススコ地域農村地域の総合開発プロジェクト推進のため、2009 年度投資プログラム予算内に \$720,000.00 (72 万ペソ) を計上する。</p>	<p>5.</p>
--	--	-----------

添付資料 2-2 PDM 1 (2008 年 12 月)

プロジェクト名: チアパス州ソコヌスコ地域持続的農村開発プロジェクト (PAPROSOC-2)

プロジェクト期間: 2006 年 9 月 - 2009 年 9 月

対象地域: チアパス州ソコヌスコ地域全 16 市

対象グループ: 16 市農村開発チーム

協力機関: 外務省 (SRE)、農牧農村開発漁業食糧省 (SAGARPA)、チアパス州立自治大学 (UNACH)、社会開発省 (SEDESOL)

プロジェクト要約	指標	入手段	外部条件
<p>上位目標</p> <p>ソコヌスコ地域で展開した本プロジェクト活動が、持続的農村開発法 (LDRS) の適切な運用例として認められ、ソコヌスコ地域外において本プロジェクト活動をモデルとした農村開発が実施される。</p>	<p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> LDRS の責任統括機関である SAGARPA を通じて、当プロジェクトが LDRS のモデル運用例として本プロジェクト外の会議で 3 回以上紹介される。 LDRS に定められる持続的農村開発審議会 (CEDRS) において、当プロジェクトが LDRS のモデル運用例として認められる。 ソコヌスコ地域外の市村において、当プロジェクトをモデルとし、プロジェクト作成のガイドラインを活用した住民と市の協働による農村開発活動が開始される。 	<ul style="list-style-type: none"> C/P インタビュー 州持続的農村開発審議会 (CEDRS) メンバークンタビュー CEDRS 議事録 	
<p>プロジェクト目標</p> <p>ソコヌスコ地域における 16 市が、公的支援プログラムを活用しながら、持続的農村開発法 (LDRS) 及び住民のニーズに即した農村開発を行う。</p>	<p>16 市中 12 市 (75%) において、住民と各市農村開発チーム (CDR) の協働による農村開発プロジェクトがモデル村以外で実施できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト進捗報告書 C/P インタビュー 	
<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 農村開発チーム (CDR) が各市の持続的農村開発審議会 (CMDRS) において承認される。 農村開発チーム (CDR) が、持続的農村開発法 (LDRS) に関するより深い知識及び公的支援プログラム活用のための知識を備える。 農村開発チーム (CDR) が、モデル村住民グループに対する組織化およびその運営、強化を行うための手法を身につける。 	<ol style="list-style-type: none"> 16 市中 12 市以上において農村開発チーム (CDR) が承認される。 16 市における農村開発チームメンバーの 7 割以上が、プロジェクトで作成・改善するガイドラインに記載される LDRS、公的支援プログラムについて 16 市内外の関係者に紹介することが出来る。 16 市中 12 市以上において農村開発チーム (CDR) が、PAPROSOC1 で策定したガイドラインに基づき、モデル村における農村開発活動を支援できる。 	<ul style="list-style-type: none"> CMDRS 議事録 プロジェクト進捗報告書 (市農村開発チーム CDR が普及活動をした集落数) C/P および農村開発チーム (CDR) インタビュー パイロットコミュニティ住民インタビュー 	

<p>活動</p>	<p>(1)-1 持続的農村開発審議会(CMDRS)において農村開発チーム(CDR)の設置提案。 (1)-2 上記提案に関して各市長への説明。 (1)-3 持続的農村開発審議会(CMDRS)において農村開発チーム(CDR)の設置に係る承認受諾。 (2)-1 農村開発チーム(CDR)に対する、持続的農村開発法(LDRS)に係る研修の実施。 (2)-2 農村開発チーム(CDR)に対する、公的支援プログラムに係る研修の実施。 (3)-1 研修内容の準備と確認。 (3)-2 農村開発チーム(CDR)に対する、ファシリテーター研修の実施。 (3)-3 農村開発チーム(CDR)に対する、計画立案・モニタリング評価研修の実施。 (3)-4 上記研修を踏まえた、農村開発チーム(CDR)によるモデル村住民グループの組織化。 (3)-5 農村開発チーム(CDR)とモデル村住民との協働によるコミュニティのニーズに基づき公的支援プログラムを利用しての農村開発プロジェクトの実施運営。</p>	<p>投入</p> <p>＜メキシコ側＞</p> <ol style="list-style-type: none"> G/P 配置 プロジェクトディレクター プロジェクト副ディレクター プロジェクトマネジャー プロジェクト副マネジャー 専門協力員 プロジェクト事務所専属の農村開発局G/P(日本人長期専門家と協働) 事務員 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 秘書 ➢ 運転手 ➢ その他補助員 コミュニティソーシャルサービスプログラム(学生による卒業前の実地研修)を通じた、チアパス州大学による制度的協力。 プロジェクト実施に必要な施設 日本人専門家や会合のためのプロジェクトオフィスその他資機材供与 電気、ガス、水、電話、インターネット等便宜サービス、その他プロジェクト活動に必要な調度品 その他合意に基づく資機材 日本側供与機材に係る付加価値税 <p>チアパス州企画財務局は、PAPROSOC-2を考慮し、ソコヌスコ地域農村地域の総合開発プロジェクト推進のため、2009年度投資プログラム予算内に\$720,000.00(72万ペソ)を計上する。</p>	<p>＜日本側＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門家派遣 <ul style="list-style-type: none"> (1) 長期専門家 <ul style="list-style-type: none"> ● リーダー/組織運営 ● 業務調整 (2) 短期専門家 現地活動費 機材供与(車両2台 他) プロジェクト実施に必要なその他の機材 	<ul style="list-style-type: none"> ● ソコヌスコ地域において活用可能な公的支援プログラムが存在する ● 農村開発が連邦及び州両政府の開発計画の主要課題である ● ソコヌスコ地域が降雨により壊滅的な損害を受けない <p>前提条件</p> <p>16 市住民が本プロジェクトに反対しない。</p> <p>州政府農村コミュニティ(CECAMPO)を通じて農村開発局が州政府他機関と連携する。</p>
------------------	--	---	--	--

添付資料3 評価調査日程

日数	月日	曜日	調査工程(作業項目)			宿泊先
			農村開発(清家 政信)	協力企画(磯貝 白日)	評価分析(野崎 裕)	
			総括(米崎 紀夫)			
1	7/5 日				メキシコ到着	メキシコシティ
1	7/6 月				JICAメキシコ事務所打ち合わせ メキシコシティ→トゥストラグティエレス プロジェクト専門家ヒアリング	チアパス州トゥ ストラグティエ レス
2	7/7 火				SECAM表敬・ヒアリング 持続的農村開発審議会地域・市アドバイ ザー表敬	チアパス州トゥ ストラグティエ レス
3	7/8 水				SAGARP州代表表敬・ヒアリング 州政府元本邦研修生ヒアリング トゥストラグティエレス→タバチュラ	チアパス州タバ チュラ
4	7/9 木				7カベタウ市市長、農村開発チーム(CDR)へ のヒアリング、ビジャコマルティン市CDRへのヒ アリング、(ビジャ市市役所にて) (エスコホ 集落参加/1年目のパイロット集落)	チアパス州タバ チュラ
5	7/10 金				ウイクストラ市CDRへのヒアリング SECAM支局長表敬・説明 SECAM関係者ヒアリング (地域アドバイ ザー、市アドバイザー)	チアパス州タバ チュラ
6	7/11 土				資料作成	チアパス州タバ チュラ
7	7/12 日				資料作成	チアパス州タバ チュラ
8	7/13 月		メキシコ到着		補足調査、資料作成	メキシ コシ ティ
9	7/14 火		JICAメキシコ事務所打ち合 わせ 外務省、SAGARPA協議	同左	補足調査、資料作成	チアバ ス州タ バチュラ
10	7/15 水		メキシコシティ→タバチュラ 団内打ち合わせ SECAM表敬・説明 持続的農村開発審議会市アドバイ ザーインタビュー	同左	同左	チアパス州タバ チュラ
11	7/16 木				マバステック市CDR及びパイロット村グループ数人へのヒアリング アカコヤグア市にて市長及びCDRへのヒアリング ツサンタン市クアダルベ・ビトリリ集落 パイロット村グループ数人へのヒアリング	チアパス州タバ チュラ
12	7/17 金				カワリ外市アラカナル集落 ワークショップ参加 第1回合同評価協議(ワークショップ)	チアパス州タバ チュラ
13	7/18 土		資料作成	同左	同左	チアパス州タバ チュラ
14	7/19 日		団内打ち合わせ	同左	同左	チアパス州タバ チュラ
15	7/20 月		メキシコシティ→タバ チュラ、合同評価報告 書協議	合同評価報告書協議	同左	チアパス州タバ チュラ
16	7/21 火		合同評価報告書/M M協議	同左	同左	チアパス州タバ チュラ
17	7/22 水				合同調整委員会 移動 タバチュラーメキシコシティ	メキシコシティ
18	7/23 木		JICAメキシコ事務所報 告、大使館報告	SAGARPA協議、JICAメキシ コ事務所報告、大使館報告	同左	メキシコシティ
19	7/24 金			メキシコ事務所発	同左	
20	7/25 土			日本着	同左	

添付資料 4 評価グリッド
実績・実施プロセス

プロジェクト名：チアパス州ソノスコ地域持続的農村開発プロジェクト (PAPROSOC-2)

(現状・実績に基づいて検証)

評価項目	評価設問		情報源	データ収集方法	評価	段階
	大項目	小項目				
実績の検証	投入は計画どおりに実施されたか。(計画値との比較)		実績グリッド、プロジェクト報告書、専門家、カウンセラーパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトは協力期間3年間の技術協力プロジェクトであり、その投入実績は添付資料投入実績および添付資料実績グリッドに示すとおりである。日本側およびメキシコ側双方ともに投入が遅れが見られた。 プロジェクトの開始が2006年9月であったにも関わらず、日本側のチーフアドバイザー/組織運営専門家の派遣が2007年3月、業務調整/農村開発専門家の派遣が2007年7月と大きく遅れた。この間、C/Pである州政府の政権交代が2007年1月にあったことを考慮すれば、派遣時期に問題があったと思われる。また、第1次チーフアドバイザー/組織運営専門家の離任が2008年3月、第2次チーフアドバイザー/組織運営専門家の離任が2008年5ヶ月間の空席がプロジェクトマネージメントを弱体化させた」と判断される。 短期専門家は3~4名計画されていたが、3名が極短期に派遣されただけで、計画を大きく下回った。ただし、チーフアドバイザー/組織運営専門家の不在期間に、現地契約のアドバイザーとしてメキシコチアパス州在住で当該地域の開発、政策に精通している日本人を投入したことは評価される。 メキシコ側では当初実質的なコーディネーターが不在であったことが州政府とのコミュニケーションに支障を来した。 本プロジェクトには協力機関であるSAGARPAから1名、UNACHから1名が派遣されていたが、2008年6月UNACHの職員はプロジェクトを離れ大学に復職した。 ローカルコストの負担は、州政府が相応の負担をしている。プロジェクトに派遣される人件費をはじめ、業務に必要な最低限の文具、電気代、電話代、最も経費がかかるガソリン代についても、基本的にC/P機関が負担している。 	B

評価項目	評価設問		情報源	データ収集方法	評価	段階
	大項目	小項目				
	アウトプットは計画どおりに産出されたか。(目標値との比較)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農村開発チーム (CDR) が、市持続的農村開発審議会アドバイザーの支援のもと、各市の持続的農村開発審議会 (CMDRS) において承認される。 2. CDR が、市持続的農村開発審議会アドバイザーの支援のもと、持続的農村開発法 (LDRS) および公的支援プログラム活用のための知識を備える。 3. SECAM 職員、市持続的農村開発審議会アドバイザー、CDR のメンバーが生活改善アプローチを介したプロジェクトサイクル運営手法を身につけ。 4. 生活改善アプローチを介したプロジェクトサイクル運営手法に係るガイドラインを作成する。 	実績グリッド、プロジェクト報告書、専門家、カウンセラーパート、CDR、パイロット村住民、ガイドライン	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 添付資料実績グリッドに示すとおり、計画された活動が、終了時点で全てを完了することが見込めないため、計画されたアウトプットは完全には達成されないと予測される。 	C
	プロジェクト目標は達成されるか。(目標値との比較)		実績グリッド、プロジェクト報告書、専門家、カウンセラーパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 添付資料実績グリッドに示すとおり、全ての活動の完了により、アウトプットの達成が期待されるが、現状ではアウトプットの4項目のうち、2項目 (アウトプット1、2) がほぼ達成された一方、プロジェクトの終了までの残り期間では、アウトプット3 に関する16市におけるパイロットプロジェクトの実施、モニタリング評価研修のOJTでの実施、それらの経験を取り入れながらのアウトプット4 に関するガイドラインの作成などの活動が完了しないため、アウトプットが産出されない項目がある。そのため、プロジェクト目標が達成されないものと判断される。 	C
	上位目標達成の見込みはあるか。(目標値との比較)		実績グリッド、プロジェクト報告書、専門家、カウンセラーパート、CDR	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> SAGARPA 本省の LDRS 管轄となる持続的農村開発総局の課長、国際協力局に、プロジェクトの説明および進捗を2度 (2008年12月、2009年3月) 説明した。 プロジェクトディレクター代行 (SECAM 研修部長) の言明によれば、チャパス州政府は、LDRS に則ったプロジェクト手法をソコヌスコ地域に定着させることに強い関心を持っている。 州が実施している社会セクター支援プログラムに、PAPROSOC-2 の手法を現在作成中のガイドを使って適用することに強い意欲を示している。 	B
実施プロセスの検証	活動は計画どおりに実施されたか。		実績グリッド、プロジェクト報告書、専門家、カウンセラーパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 2006年9月のプロジェクト開始以来、2007年1月の州政府、2008年1月の全市長の交代などの政権交代により、プロジェクトの実施は大きな影響を受けた。 2008年6月の運営指導調査団訪問時に州政府とJICAとの間で活動の整理、実施体制の再構築に関する協議が行われた。 以降、実施体制が整い、プロジェクトの活動が協働で意欲的に実施、成果の産出も目に見える形で始めている。しかし、新型インフルエンザの影響による停滞も加わり、当初計画していた活動に大きな遅れが生じている。 	C

評価項目	評価設問		情報源	データ収集方法	評価	段階
	大項目	小項目				
	技術移転の方法に問題はなかったか。		専門家、カウンタ ーパート	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 住民参加を促す手法として日本独自の生活改善事業の経験を盛り込んだ参加型手法を用いたことは、州政府の農村開発支援政策に一定のインパクトを与えたといえる。 	B
		プロジェクトのマネジメント体制に問題はなかったか。	専門家、カウンタ ーパート、関係機 関	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト期間の前半でプロジェクトと州都およびJICA側との意思の疎通が不十分であった。 前半ではC/Pの離職・交代の影響を強く受けた。 プロジェクトディレクターであるSECAM長官がディレクター代行として任命した研修部長が就任し、2008年6月の運営指導調査を契機として双方のプロジェクト実施体制の再構築が行われてきた。 	B
	実施機関やカウンタ ーパートのプロジェクトに対する認識は高いか。	関係機関、専門 家、カウンタ ーパート	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 2008年6月の運営指導調査訪問以後、SECAMがこの地域に展開している現場要員のプロジェクトへの参画が活発になり、PAPROSOCに意向・派遣されている人たちのプロジェクトに対するオーナーシップの高まりが見られた。 実施部門としても、州政府全体としても意識変容の度合いが高まっている。 	A	
	適切なカウンタ ーパートが配置されたか。	実績グリッド、プ ロジェクト報告 書、専門家、カウ ンタ ーパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> C/P 機関の人員の交代があり、プロジェクト開始当初からの状況を十分に把握しているC/Pは不足している。 	C	
	ターゲット・グループや関係組織のプロジェクトへの参加度合いやプロジェクトに対する認識は高いか。	関係機関、専門 家、カウンタ ーパート、CDR	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 当初ターゲット・グループとしていた農村開発チーム (EDRS) は、C/PであるSECAMの提言により、2008年7月から、農村開発チームに住民代表を加え、EDRSに代わりCDRと名称を変更し、このチームを市持続的農村開発審議会 (CMDRS) の場で承認する手続きを取った。 SECAMは、プロジェクト終了後の自立発展性を考慮し、州政府内の社会開発局 (SEDES) などとの連携を模索しており、プロジェクトの手法を活用する方向で検討を開始している。 	B	
	プロジェクトの実施過程で生じている問題や効果発現に影響を与えた要因は何か。				<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトは2006年9月に開始したが、2007年1月に新政府が発足し、長官をはじめとする幹部職員は入れ替えとなった。 3年ごとに実施される市長選挙が行われ、2008年1月には市長が交代した。これらの政権交代により、R/Dに署名した州政府責任者および16市市長は全て交代することになり、この一連の動きはプロジェクト実施に大きな影響を及ぼした。 プロジェクト後半においては、JICA専門家およびSECAM関係者の努力により、意思疎通が改善され、SECAM、JICA間のプロジェクトに対する共通認識が強化された。 SECAM 上層部の本邦研修により、生活改善の方法に関する知識や実地応用能力レベルが高まり、その使用方法について州政府の中・上層部に適切な提案が行われるようになった。 	D
			関係機関、専門 家、カウンタ ーパート、CDR	インタビュー		

評価グリッド
評価5項目

評価 5項目	評価設問		情報源	データ収集 方法	評価 価値	段階
	大項目	小項目				
妥当性	プロジェクト実施の必要性はあったか。	対象地域・社会のニーズに合致していたか。	プロジェクト報告書、関係機関、専門家、カウンタート、CDR	資料レビュー インタビュ	<ul style="list-style-type: none"> 2001年に制定されたLDRSにおいては、開発の遅れている農村部の総合開発を推進しており、同法に即して国内で最も貧困の度合いが高いチアパス州の農業生産の中心地であるソコヌスコ地域においてプロジェクトを実施しており対象地域、社会のニーズに一定の整合性がある。 市農村開発チーム (EDRS) および CDR が求める、要求事項であった。 	A
		ターゲット・グループのニーズに合致していたか。	プロジェクト報告書、関係機関、カウンタート、CDR	資料レビュー インタビュ		A
	プロジェクト実施の優先度はあったか。	当該国の開発政策との整合性はあったか。	プロジェクト報告書、関係機関	資料レビュー インタビュ	<ul style="list-style-type: none"> LDRS は、農村開発を推進する国家レベルの取り組みであり、国家の開発政策と合致している。また現政権の国家開発計画の5本柱の3. 社会の公平性に合致している。さらに、SAGARP のセクター政策の5つの目標の中の1. 国民の人間開発水準の引き上げ、5. 農村社会のアクターのものと、合意調のとれた確かな開発を目指す、と合致している。同様に、チアパス州の開発計画 2007-2012 における5つの重点課題のうち、「統一ある政府と参加型民主主義の促進」、「社会開発、不平等との闘い」と関係している。そのため、本プロジェクトはメキシコ国の開発政策と整合性がある。 事前・中間評価時に JICA の対メキシコ重点課題分野「人間の安全保障の向上」、開発課題「脆弱地域コミュニティ能力強化」、JICA プログラム「脆弱地域コミュニティ能力強化」に位置付けられており、日本の援助政策・国別事業実施計画との整合性がある。 農村開発を推進するためには、地方行政関係者の人材育成は不可欠であり、重要な戦略である。 	A
		プロジェクト実施は手段として適切だったか。	日本の援助政策・国別事業実施計画との整合性はあるか。	国別援助方針等		資料レビュー
	プロジェクト実施は手段として適切だったか。	プロジェクトは当該国の対象分野・セクターの開発課題に対する効果を上げる戦略として適切だったか。	プロジェクト報告書、関係機関	資料レビュー インタビュ	<ul style="list-style-type: none"> ターゲット・グループは、当初 16 市政府の農村開発職員チームとされており、3年ごとの地方政権の交代による離職の可能性があるにもかかわらず、ターゲット・グループに選定したのには適正であったとは判断できない。 一方、プロジェクトの後半で、市政府の政権交代のリスクを防ぐために、住民グループの代表および市伝統的農村開発審議会 アドバイザーを追加した点は、評価される。 ワーキングショップの対象は農民グループであり、波及効果は大きい。 ターゲット・グループは行政機関に偏在しているが、ワーキングショップの対象は農民グループであり、受益しており、負担もほぼ分配されている。 	B
		ターゲット・グループ以外への波及性はあったか。	関係機関、専門家、カウンタート、CDR	インタビュ		A
	効果の受益や費用の負担が公平に分配されたか。	関係機関、専門家、カウンタート、CDR	関係機関、専門家、カウンタート、CDR	インタビュ	<ul style="list-style-type: none"> 効果の受益や費用の負担が公平に分配されたか。 	A

評価 5項目	評価設問		情報源	データ収集 方法	評価	段階	
	大項目	小項目					
有効性	中間評価以降のプロジェクトをとりまく環境（政策、経済、社会等）の変化はあったか。	日本の技術の優位性はあったか。	JICA 担当事業部、専門家、カウ ンターパート、 関係機関、専門 家、カウンタパー ート、CDR	インタビュー	本プロジェクトは、日本の生活改善運動の概念を取り入れながらも住民参加型で実施しており、本邦研修も含めて日本の技術の比較優位はある。 州政府、市政府、地域・市アドバイザーのプロジェクトに対する関心が高まっている。	A	
		妥当性の要約（総合判定） 2001年に制定されたLDRSの中では、開発が遅れている農村部の総合開発の推進を同法の1つの目的としている。同法に即して国内で最も貧困の度合いが高いチアパス州の農業生産の中心地であるソノコスノ地域においてプロジェクトを実施しており、対象地域、社会、ターゲット・グループのニーズに合致していた。また、メキシコ国の開発政策および日本国の援助政策・国別事業実施計画との整合性もある。さらに、本プロジェクトは、日本の生活改善運動の概念を取り入れながらも住民参加型で実施しており、住民のニーズに応える村落開発の実施手段としての適切性も十分に備えており、本プロジェクトの妥当性は高かったと評価できる。					A
	PDMは必要に応じて見直されたか。		プロジェクト報告書、専門家、カ ウンターパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> PDMは2008年12月に見直され、PDM1に修正されたが、プロジェクト目標とアウトプットとの関係をより検討する必要があった。そのため、2009年7月に一部修正されたPDM2が作成された。 プロジェクト期間内にプロジェクト目標を達成するのは難しい。 	B	
		プロジェクト目標は達成される見込みか。	プロジェクト報告書、専門家、カ ウンターパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> PDM1が見直された際に、アウトプットの修正追加がなされており、当初のアウトプットはプロジェクト目標の達成には不十分であったといえる。 外部条件は設定されていないが、検討が必要であったと思われる。 	C	
	アウトプットとプロジェクト目標との関係は適切だったか。（因果関係）	アウトプットは、プロジェクト目標を達成するために十分であったか。	専門家、カウンタ ーパート	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> PDM1が見直された際に、アウトプットの修正追加がなされており、当初のアウトプットはプロジェクト目標の達成には不十分であったといえる。 	C	
		アウトプットからプロジェクト目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件の影響はあったか。	プロジェクト報告書、専門 家、カウンタ ーパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 政権交代によるターゲット・グループおよびC/Pの交代は外部条件とも捉えることができ、政権交代時あるいは中間評価段階で、PDMの根本的な見直しが必要であったのではないかと判断される。 	C	
	有効性の要約（総合判定） 当初のPDM0では、C/Pおよびターゲット・グループの明確化の課題、アウトプットとプロジェクト目標との関係に論理性が欠けることが確認された。また、定量的に測定できない指標が設定されていた。その結果、計画と実績の乖離が顕著になったため、プロジェクト後半部分において2度にわたりPDMが見直され修正された。現行のPDM2においては、アウトプットとプロジェクト目標との関係が整理された結果、活動が計画通り実施されたこと、プロジェクトが評価時点で完了することが見込まれず、現時点で有効性は高いとは評価されない。	プロジェクト目標達成の阻害・貢献要因は何か。	プロジェクト報告書、専門 家、カ ウンターパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 計画されたアウトプットは、アウトプット1～2に関しては一定の達成が見込まれる。しかし、アウトプット3～4に関しては、多くの活動が現在実施中あるいは今後実施することになっている。計画された活動が、プロジェクトの終了までに全てを完了することが見込まないため、計画されたアウトプットは十分に達成されないと予測される。 計画された活動は、活動1～2に関しては概ね計画どおりに実施されたと判断される。しかし、活動3～4に関しては、多くの活動が現在実施中あるいは今後実施することになっている。そのため、プロジェクトの終了までの残り2ヶ月間で、全ての活動を完了することは見込まない。 	C	
		アウトプットの産出状況は適切か。	プロジェクト報告書、専門 家、カ ウンターパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 計画されたアウトプットは、アウトプット1～2に関しては一定の達成が見込まれる。しかし、アウトプット3～4に関しては、多くの活動が現在実施中あるいは今後実施することになっている。計画された活動が、プロジェクトの終了までに全てを完了することが見込まないため、計画されたアウトプットは十分に達成されないと予測される。 	C	
	効率性	活動とアウトプットとの関係は適切だったか。（因果関係）	アウトプットを産出するために十分な活動であったか。	プロジェクト報告書、専門 家、カ ウンターパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 計画されたアウトプットは、アウトプット1～2に関しては一定の達成が見込まれる。しかし、アウトプット3～4に関しては、多くの活動が現在実施中あるいは今後実施することになっている。そのため、プロジェクトの終了までの残り2ヶ月間で、全ての活動を完了することは見込まない。 	C
				プロジェクト報告書、専門 家、カ ウンターパート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 計画されたアウトプットは、アウトプット1～2に関しては一定の達成が見込まれる。しかし、アウトプット3～4に関しては、多くの活動が現在実施中あるいは今後実施することになっている。そのため、プロジェクトの終了までの残り2ヶ月間で、全ての活動を完了することは見込まない。 	C

評価 5項目	評価設問		情報源	データ収集 方法	評価	段階
	大項目	小項目				
	活動のための適正な規模・質の投入がタ イミング良く実施されたか。	活動からアウトプットに至るまでの外 部条件は、現時点においても正しいか。 外部条件の影響はあったか。	プロジェクト報 告書、関係機 関、専門家、カウ ンタパート	資料レビ ュー インタビ ュー	<ul style="list-style-type: none"> 設定されている事項は正しいといえるが、より関連性の強い事項も推奨される。 	B
		専門家の派遣は適切であったか。	プロジェクト報 告書、関係機 関、専門家、カウ ンタパート	資料レビ ュー インタビ ュー	<ul style="list-style-type: none"> 日本人専門家の投入は、長期短期ともに予定した人数・期間および適切なタイミングでの投入に至っていない。 	C
		供与機材は適切であったか。	プロジェクト報 告書、関係機 関、専門家、カウ ンタパート	資料レビ ュー インタビ ュー	<ul style="list-style-type: none"> 主な供与機材は車両だけであるが、活動内容からして規模および質的に適切に投入されたと判断される。 	A
		C/Pの配置は適切であったか。	プロジェクト報 告書、関係機 関、専門家、カウ ンタパート	資料レビ ュー インタビ ュー	<ul style="list-style-type: none"> C/Pの位置付けが明確でなく、投入量としても不足している。 	C
		施設の投入は適切であったか。	プロジェクト報 告書、関係機 関、専門家、カウ ンタパート	資料レビ ュー インタビ ュー	<ul style="list-style-type: none"> 事務所の提供以外、土地や施設に対する投入はなかった。 	B
		研修員の受入は適切であったか。	プロジェクト報 告書、関係機 関、専門家、カウ ンタパート	資料レビ ュー インタビ ュー	<ul style="list-style-type: none"> 2007年から2009年にかけて、13名がプロジェクトから本邦研修に派遣されたが、そのうち現在もプロジェクト活動に参画しているのは6名にすぎない。帰国後もプロジェクトに参画する人材を選定するため、適切な要件やプロフィールを設定して候補者選定の効率を高めるべきである。 	B
		類似プロジェクトと比較してアウトプ ットは、投入コストに見合ったものか。	プロジェクト報 告書、関係機 関、専門家	資料レビ ュー インタビ ュー	<ul style="list-style-type: none"> アウトプットは投入コストにほぼ見合ったものである。 	A
		類似プロジェクトと比較してプロジェ クト目標の達成度は、投入コストに見合 ったものか。	プロジェクト報 告書、関係機 関、専門家	資料レビ ュー インタビ ュー	<ul style="list-style-type: none"> 投入コストは比較的小さく、プロジェクト目標の達成度に、ほぼ見合った投入である。 	A
		効率性の要約（総合判定） 新たな体制が再構築されてから1年程度しか経過していない。そのため、プロジェクトの終了までの残り2ヶ月間で、全ての活動を完了することは見込めない。また、投入は必要性の高いものに限られ、比較的少ない投入でアウトプットを実現しようとしているが、プロジェクトの終了までに計画されたアウトプットは十分に達成されないと予測され、その投入のタイムリミットを含めて本プロジェクトの効率性は高かったとは評価されない。さらに、2007年から2009年にかけて、13名がプロジェクトから本邦研修に派遣されたが、そのうち現在もプロジェクト活動に従事しているのは6名にすぎない。プロジェクトの後半部分においては対応していたが、帰国後もプロジェクトに参画する人材を選定するために、適切な要件やプロフィールを設定して候補者選定の効率を高めるべきである。なお、現地契約のアドバイザーとしてチアパス州在住で当該地域の開発、政策に精通している日本人を投入したことは、効率性の観点から評価に値する。			<ul style="list-style-type: none"> 指標の一部を満たす可能性は十分にあるが、州政府が望んでいる本プロジェクトの手法を生かした他地域での農村開発の実施に関しては、州政府の扱い次第である。 	C
		インパクト	上位目標は達成される見込みか。	プロジェクト報 告書、関係機 関、専門家、カウ ンタパート	資料レビ ュー インタビ ュー	<ul style="list-style-type: none"> 長期的視点で見える必要があるが、上位目標の達成はチアパス州およびメキシコ国の開発計画への効果が十分に期待できる。

評価 5項目	評価設問		情報源	データ収集 方法	評価	段階
	大項目	小項目				
自立発展性	上位目標とプロジェクト目標との関係は適切だったか。(因果関係)	上位目標の達成を阻害する要因はあるか。	プロジェクト報告書、関係機関、専門家、カウンタート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 州政府のプロジェクトに対するオーナーシップに変更があれば影響する。 	B
		上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか。	プロジェクト報告書、関係機関、専門家、カウンタート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> PDMにおける「LDRSの運用例として認められ」という部分の解釈次第である。 	B
		プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件が満たされる可能性は高いか。	プロジェクト報告書、関係機関、専門家、カウンタート	資料レビュー インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 外部条件は設定されていないが、検討が必要であったと思われる。 	C
		上位目標以外の正負のインパクトは生じたか。	関係機関、専門家、カウンタート	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> LDRSの連邦レベルの責任官庁であるSAGARPA農村開発次官下の課長レベルにLDRSを尊重した住民参加型プロジェクトが認識されたことやSEDESOLの局長補佐クラスの生活改善に関する強い興味を引き出したこと。また、C/Pである州政府が農村開発のためにはセクターを超えた協調調整が必要であるとの認識を得たことなどの状況が出てきている。 特にない。 	A
		波及効果(正・負のインパクト)はあるか。	関係機関、専門家、カウンタート	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 特にない。 	A
	インパクトの要約(総合判定) プロジェクトの終了までの残り期間では、計画されたプロジェクト目標が一部しか達成されないものと判断される現時点では、プロジェクト目標の達成とは別に、チアパス州政府は、本プロジェクトの手法を、作成したガイドラインを活用して州政府として実施中の農村開発プログラムで実施することに興味を示している。一方、負のインパクトは特に認められない。そのため、上位目標の達成は終了時評価調査時点では明確に確認することは困難であるが、プロジェクトの実施によりブラサスのインパクトが認められ、今後、上位目標の達成が期待される。	関係機関	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> LDRSをプロジェクトの軸としたため、連邦および州政府の政策と合致しており、公的支援プログラムの活用などに高い可能性がある。 類似組織との連携については、州政府社会開発局(SEDESOL)との連携がここへきて発展している。特にSEDESOL傘下の独立機関である「連帯するチアパス(Chiapas Solidario)」は、様々なプログラムでコミュニティベースの開発を推進しているが、住民参加を促す手法を有していないことから、本プロジェクトのアプローチに強い興味を持っている。 政権の交替により振り出しに戻る恐れがあるが、現チアパス州政府は2012年まで継続する。 スタッフの配置・定着については、プロジェクト期間中も難しく、州政府としてどのように対応するかが課題である。 州政府は、本プロジェクトに強い関心を示しており、SECAMのオーナーシップは十分に確保されている。 	B	
	政策・制度面の支援はあるか。	関係機関	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 政策支援は協力終了後も継続するか。 	B	
	政策・制度面の支援はあるか。	関係機関	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 関連規制、法制度は整備されているか。 整備される予定か。 	B	
	組織・財政的に活動は継続して行われるか。	関係機関、専門家、カウンタート	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 協力終了後も効果を上げていくための活動を実施するに足る組織能力はあるか。 	B	
	実施機関のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されているか。	関係機関、専門家、カウンタート	インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 実施機関のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されている。 	A	

添付資料 5 実績グリッド

プロジェクト名：チアパス州ソコヌスコ地域持続的農村開発プロジェクト (PAPROSOC-2)

注) 2009 年は 6 月末までの実績

プロジェクトの要約/計画活動	データ入手手段	活動実績	達成度
1-1 持続的農村開発審議会 (CMDRS) において農村開発チーム (CDR) の設置を提案する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 運営指導調査団との協議の後、チアパス州政府は正式な枠組みとして CDR を CMDRS に設置する案を検討した (2008 年 6 月～7 月)。 	4
1-2 上記提案に関して各市長へ説明する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ソコヌスコ地域持続的農村開発審議会 (CDDRS) アドバイザー、プロジェクトコーディネーターが、持続的農村開発審議会市アドバイザーを通じて市への打診を行った (2008 年 7 月)。 	4
1-3 CMDRS において CDR の設置に係る承認を受諾する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 16 市の市持続的農村開発審議会 (CMDRS) の総会の中で CDR の設置が承認された (2008 年 7 月～9 月)。 	4
1-4 CMDRS でパイロット村を選定する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 各市のパイロット村は 5 村であるが、このうち 1 村を PAPROSOC-2 のパイロットとすることで CMDRS で承認されている (2008 年 7 月～12 月)。 	4
1-5 対象グループを形成する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> SECAM がパイロット村 80 村で実施した技術研修の際にグループメンバーは確定している。プロジェクトが普及するパイロット村については、ワークショップを進める際にメンバーの確認を行っている (2008 年 12 月～2009 年 2 月)。 	4
2-1 農村開発チーム (CDR) に対する、持続的農村開発法 (LDRS) に係る研修を実施する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 1 年目 4 市に対し、パイロット村普及時、市訪問時にプロジェクトスタッフが常時確認していた (2006 年 8 月～2007 年 9 月)。 16 市を対象とした研修で CDR メンバーに説明した (2008 年 11 月 12 日～14 日)。 SECAM の予算で実施した研修の前後にグループリーダーに対し、各市で生活改善を説明した際に、LDRS についても触れている (2008 年 12 月～2009 年 2 月)。 市持続的農村開発審議会アドバイザーは、市持続的農村開発審議会 (CMDRS) 定期総会の中で、常に LDRS についての確認を行っている (2006 年 9 月～)。 16 市を対象とした研修において農村開発局 (SECAM)、社会開発局 (SEDESO)、労働局 (ST)、チアパス州技術研修研究所 (ICATECH) 等について説明した (2008 年 11 月 12 日～14 日)。 	4
2-2 CDR に対する、公的支援プログラムに係る研修を実施する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー		4
3-1 研修内容を準備し確認する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト前半にガイドラインは作成されていたものの、手法の統一が行われていなかった (2006 年 9 月～2008 年 3 月)。 プロジェクトで参加型現状分析、計画立案ワークショップの実施手法を確定し、SECAM の同意を得た (2008 年 12 月～2009 年 1 月)。 	4
3-2 SECAM 職員、市持続的農村開発審議会アドバイザー、農村開発チーム (CDR) のメンバーに対する、生活改善の紹介を含めた、参加型農村開発を実施するためのプロジェクト手法に関する研修を実施する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 16 市中 15 市で生活改善を含めた参加型開発の研修を各市役所またはそれに代わる場所で、住民リーダーに対して実施した (2008 年 12 月～2009 年 2 月)。 	3
3-3 簡易現状分析および計画立案の研修をパイロット村で OJT で実施する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 16 市の 16 パイロット村を対象に実施中である。現在 16 村中 13 村で開始されている。ワークショップは各村 4 回を予定している。2009 年 5 月末、総数 64 回のうち 38 回が終了している (2009 年 3 月～現在)。 	2

プロジェクトの要約/計画活動	データ入手手段	活動実績	達成度
3-4 パイロット村住民グループの組織強化ワークショップをOJTで実施する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 1年目 4市4村訪問時に、組織強化の重要性についてのワークショップが適宜行われている (2006年9月～2008年3月)。 上記ワークショップを実施しつつ、組織強化の時間を取り、ゲーム形式で行っている (2009年3月～現在)。 	3
3-5 農村開発チーム (CDR) とパイロット村住民との協働によるコミュニティのニーズに基づいた持続的農村開発プロジェクトを実施する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 1年目 4市4村中、2村が公的支援を活用したミニプロジェクトを実施した (2006年9月～2008年3月)。 現体制では、現在3-3のワークショップが進行中であり、これが終了してからの申請となる (未着手)。 	2
3-6 モニタリング評価研修をOJTで実施する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 現体制では、現在3-3のワークショップが進行中であり、これが終了してからの申請となる (未着手)。 	2
3-7 プロセスの意識変容のレベルを測るアンケートを実施する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 2009年6月23日現在、4回の参加型現状分析、計画立案の手法のうち2回を実施済みである (2009年6月～)。 参加型モニタリング評価については、パイロット村の進捗に合わせて実施することになる (未着手)。 	2
4-1 市持続的農村開発審議会アドバイザーの支援のもと、農村開発の一例としてのプロジェクトの手法についてガイドライン案を作成する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 2009年6月に開始した市持続的農村開発審議会アドバイザーへの研修を通じて、アドバイザーたちが手法をガイドライン化する作業を行っている。6月24日現在、4回の参加型現状分析、計画立案のワークショップのうち2つのガイドラインのドラフトが上がっている (2009年6月～)。 	2
4-2 SECAM内で州レベルの最終的なガイドラインの内容を確認する。	プロジェクト報告書、関係者インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの総ドラフトが完成してからの作業である (未着手)。 	2

活動の達成度の要約 (総合判定)

計画された活動は、活動1～2に関しては概ね計画どおりに実施されたと判断される。しかし、活動3～4に関しては、多くの活動が現在実施中あるいは今後実施することになっている。そのため、プロジェクトの終了までの残り2ヶ月間で、全ての活動を完了することは見込めない。

達成度:

- 4: 完了 (既に完了している)
- 3: 完了見込み (プロジェクト終了時までに完了見込み)
- 2: 課題を残す (プロジェクト終了時までに完了が見込めない)
- 1: 活動せず

プロジェクトの要約	指標	データ入手手段	実績	段階
<p>プロジェクトの要約</p> <p>1. 農村開発チーム（CDR）が、市持続的農村開発審議会アドバイザーの支援のもと、各市の持続的農村開発審議会（CMDRS）において承認される。</p>	<p>16 市中 12 市以上において CDR が承認される</p>	<p>● CMDRS 議事録</p>	<p>● 2006 年 9 月の R/D 署名前に 16 市市長（任期 2005-2007）に対し、農村開発チーム（EDRS）の設置とパイロット村への普及について説明を行い、了承を得た。</p> <p>● 2008 年 1 月の 16 市長交代後、2008 年 9 月末の時点で、16 市審議会への説明を終え、正式に市持続的農村開発審議会（CMDRS）の定期総会の場で農村開発チーム（CDR）が承認された。</p> <p>● 16 市の持続的農村開発審議会（CMDRS）の定期総会の場で、各市 5 パイロット村が承認された。この内、1 グループを PAPROSOC-2 が普及することが確認された。</p>	<p>4</p>
<p>2. CDR が、市持続的農村開発審議会アドバイザーの支援のもと、持続的農村開発法（LDRS）及び公的支援プログラム活用のための知識を備える。</p>	<p>研修への参加者数</p> <p>インタビューされた参加者の意識変容のレベル</p>	<p>● 参加者リスト</p> <p>● インタビュー、プロジェクト報告書</p>	<p>● ガイドラインに記載されている LDRS の重要性は、1 年目 4 市 4 村普及時に、口頭で説明された。</p> <p>● 2008 年 11 月 12～14 日、16 市 CDR メンバーに対し、上記、LDRS の重要な点の説明、公的プログラムの紹介（農村開発局（SECAM）、社会開発局（SEDES）、労働局（ST）、チアパス州技能機関（ICATECH））等の公的支援プログラムの、生活改善の説明が行われた。市からの参加者総数は 107 名であった。</p> <p>● 新体制のもと活動が開始されたばかりであり、現時点での意識変容のレベルを測ることは難しいが、現在進行中のワークショップについての住民や市行政職員は多くの点で満足している。</p>	<p>3</p>
<p>3. SECAM 職員、市持続的農村開発審議会アドバイザー、CDR のメンバーが生活改善アプローチを介したプロジェクトサイクル運営手法を身につける。</p>	<p>SECAM、市持続的農村開発審議会アドバイザー、CDR、パイロット村住民の意識変容のレベル</p>	<p>● C/P インタビュー、CDR インタビュー、プロジェクト報告書、パイロット村住民インタビュー</p>	<p>● アウトプット 3 を達成すべく体制を変更して間もなく、現時点でこれを超えることのできる指標は採取できていない。</p> <p>● 1 年目（2006 年 9 月～2007 年 8 月）4 市 EDRS については、4 村への普及を通じてガイドラインに記載されている内容に基づき OJT 形式で実施した。うち 4 村中 2 村が公的資金を獲得し、ミニプロジェクトを実施した。残り 2 村については、プロジェクトが技術支援し、住民の出資によって実施した。</p> <p>● 2008 年 12 月～2009 年 2 月にかけて SECAM がソコヌスコ 16 市の持続的農村開発審議会（CMDRS）で承認されたパイロット村各市 5～8 村において農業技術研修が行われた。事前または事後にこれらのパイロット村リーダーを市役所に招集し（市持続的農村開発審議会の定例会議の際に）、生活改善とプロジェクトサイクルのワークショップを 16 市中 15 市で実施した。</p> <p>● 2009 年 3 月より 16 市の各パイロットコミュニティにおいて、参加型現状分析、参加型計画作成のワークショップ（各村 4 回）を実施中である。2009 年 6 月末現在、16 市中 13 市でワークショップを開始している。</p>	<p>2</p>

アウトプット

プロジェクトの要約	指標	データ入手手段	実績	段階
4. 生活改善アプローチを介したプロジェクトサイクル運営手法に係るガイドラインを作成する。	生活改善アプローチを介したプロジェクトサイクルの運営手法に係るガイドラインの作成	SECAM・JICA間で確認の取れたガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> パイロット村におけるプロジェクトの現状分析、ニーズ抽出(計画の一部)までのワークショップを実施段階であり、市アドバイザーの支援を得て、ガイドラインの一部を作成中である。 現在まで生活改善手法に関する研修を16人の市持続的農村開発審議会アドバイザーに対して4回のうち2回を実施した。 	2
アウトプットの達成度の要約(総合判定) 計画されたアウトプットは、アウトプット1~2に関する一定の達成が見込まれる。しかし、アウトプット3~4に関しては、多くの活動が現在実施中あるいは今後実施することになっている。計画された活動が、プロジェクトの終了までに全てを完了することが見込まれないため、計画されたアウトプットは完全には達成されていないと予測される。				2
プロジェクト目標 ソコヌスコ地域における16市が、公的支援プログラムを活用し、持続的農村開発法(LDRS)及び住民のニーズに即した農村開発活動を行う。	16市におけるパイロットプロジェクトの申請数	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト進捗報告書 C/Pインタビュー ユー 	<ul style="list-style-type: none"> パイロットコミュニティでのニーズ抽出ワークショップが実施中であり、これが終了する7月~8月には、市持続的農村開発審議会アドバイザーの支援を受けて提出されることになる。 終了時評価時点では、16パイロットコミュニティの内10箇所からパイロットプロジェクト(生産プロジェクトおよび非生産プロジェクト)の申請を想定している旨確認をした。 	2
	SECAM、市持続的農村開発審議会アドバイザー、CDR、パイロットコミュニティに関連する意識変容のレベル	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト進捗報告書 C/Pインタビュー ユー 	<ul style="list-style-type: none"> 新体制のもと活動が開始されたばかりであり、現時点での意識変容を測定することは難しいが、現在進行中のワークショップに参加した住民や市農村振興課は、ワークショップの実施による組織化、協業、自覚などに對する考え方の大きな変化を指摘している。 PAPROSOC-2の活動に関係した市持続的農村開発審議会アドバイザー(16名)、CDRメンバー、パイロット村住民の多くが、パイロットプロジェクトの策定に積極的であり、策定に参加したことに満足するとともに継続しての活動を希望している。 	3
プロジェクト目標 ソコヌスコ地域における16市が、公的支援プログラムを活用し、持続的農村開発法(LDRS)及び住民のニーズに即した農村開発活動を行う。	SECAM 局長による、ガイドラインの承認	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト進捗報告書 C/Pインタビュー ユー 	<ul style="list-style-type: none"> 終了時評価時点では、分析・計画段階のガイドラインの4項目のうち2項目(作成作業の50%を達成)の草案作成が確認されており、終了時点では分析・計画段階の全項目のドラフトの完成が見込まれている。 生活改善のコンセンサスト等を説明した概論部分やパイロットプロジェクトの実施と連動する箇所である実施・モニタリング・評価部分については、プロジェクト終了までに草案作成が難しい旨発言があった。 SECAMは早期の実施を希望しており、時期については、プロジェクトの進捗状況を見極めながら決定する。 セミナーの実施には、プロジェクトサイクルの一通りの実施、実施後の評価、ガイドライン、PAPROSOC-2のプロジェクトサイクル評価最終報告書などが必要である旨確認をした。 	2
	プロジェクト目標の達成度の要約(総合判定) 全ての活動の完了により、アウトプットの達成が期待されるが、現状ではアウトプットの4項目のうち、2項目(アウトプット1, 2)がほぼ達成された一方、プロジェクトの終了までの残り期間では、アウトプット3に関するパイロットプロジェクトの実施、モニタリング評価研修のOJTでの実施、それらの経験を取り入れながらのアウトプット4に関するガイドラインの作成などの活動が完了しないため、アウトプットが産出されない項目がある。そのため、R/Dに設定されているプロジェクト	プロジェクトの経験をもとにした農村開発セミナーが実施される	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト進捗報告書 C/Pインタビュー ユー 	

	プロジェクトの要約	指 標	データ入手手段	実 績	段階
	プロジェクトの実施期間 (2009年9月19日まで) にはプロジェクト目標が達成されないものと判断される。				

達成度：

アウトプットとプロジェクト目標については、達成度を以下の4段階に設定する。

- 4：アウトプットとプロジェクト目標は、ほぼ達成されている。(達成率80%以上)
- 3：アウトプットとプロジェクト目標は、ある程度達成されている。(達成率60～80%)
- 2：アウトプットとプロジェクト目標は、半分程度しか達成されていない。(達成率40～60%)
- 1：アウトプットとプロジェクト目標は、達成されていない。(達成率40%未満)

チアパス州ソコムスコ地域持続的農村開発支援プロジェクト(PAPROSOC-2)

添付資料6 投入実績(終了時評価時まで:~2009年6月末)

	年																													
	2006			2007			2008			2009																				
	4	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
実施期間:2006年9月20日~2009年9月19日(3年間)	[Gantt chart showing implementation period from 2006.9.20 to 2009.9.19]																													
日本側																														
1. 専門家派遣																														
	氏名	派遣科目	派遣期間																											
1-1 長期専門家(1名)	和田 彩矢子	業務調整/農村開発	2007/7/12~2009/9/19(予定)	←-----→																										
1-2 短期専門家(3名)	本家 正彦	チーフアドバイザー/組織運営	2007/4/21~2008/3/10	←-----→																										
	堀 暢昭	チーフアドバイザー/組織運営	2008/8/25~2008/9/23	◆																										
	堀 暢昭	チーフアドバイザー/組織運営	2008/11/3~2008/12/19	◆																										
	堀 暢昭	チーフアドバイザー/組織運営	2009/1/12~2009/3/13	◆																										
	堀 暢昭	チーフアドバイザー/組織運営	2009/6/1~2009/8/1(予定)	◆																										
	孤崎 知己	農村開発行政	2008/3/3~2008/3/15	▲																										
1-3 アドバイザー(1名)	伊藤 泰正	アドバイザー	2008/5/26~3/13(必要に応じて協力)	←-----→																										
2. 研修員受入(本邦研修13名)																														
	氏名	研修分野	受入期間																											
	Adiel Santiago OROSCO	農村開発	2007/1/28~3/1	▲																										
	Raül FLORES CHACON	農村開発	2007/1/28~3/1	▲																										
	David VÁZQUEZ RAMÍREZ	農村開発	2007/1/28~3/1	▲																										
	Josefina PONCE ESCOBAR	農村開発	2007/1/28~3/1	▲																										
	Marlene ALTUZAR GONZALEZ	農村開発	2007/2/7~3/1	▲																										
	Osmar Juan DOMINGUEZ FUENTES	農村開発	2007/2/7~3/1	▲																										
	Angélica NOMURA HERNÁNDEZ	農村開発	2007/2/7~3/1	▲																										
	José Arturo OLETA BARRIOS	農村開発	2007/10/14~12/19	▲																										
	Ramón SALINAS RUEDA	農村開発	2007/10/28~11/28	▲																										
	David NOLASCO TRINIDAD	農村開発	2008/5/25~6/24	▲																										
	Juan Agustín Santiago Rodríguez	農村開発運営管理	2009/3/11~20	▲																										
	Juan Pablo Novelo González	農村開発運営管理	2009/3/11~20	▲																										
	José Guillermo Toledo Moguel	農村開発運営管理	2009/3/11~20	▲																										
3. 機材供与																														
	年度	機材名	金額(円換算)																											
	2006年度(平成18年度)	四輪駆動車	3,366,464	[Bar chart]																										
	2007年度(平成19年度)	四輪駆動車	2,039,044	[Bar chart]																										
	2008年度(平成20年度)			[Bar chart]																										
	2009年度(平成21年度)			[Bar chart]																										
	合計		5,405,508	[Bar chart]																										
4. プロジェクト運営経費																														
	年度	項目	金額(円換算)																											
	2006年度(平成18年度)	在外事業強化費	2,898,571	[Bar chart]																										
	2007年度(平成19年度)	在外事業強化費	3,940,540	[Bar chart]																										
	2008年度(平成20年度)	在外事業強化費	3,364,796	[Bar chart]																										
	2009年度(平成21年度)	在外事業強化費(予算)	7,735,938	[Bar chart]																										
	合計		17,939,845	[Bar chart]																										
メキシコ側																														
1. C/Pの配置																														
	氏名	職位/分野	配置期間																											
1-1 プロジェクトダイレクター(3名)	Javiel Antonio Ruiz Morales	SECAM長官	2006.09~2006/12	←-----→																										
	Ernesto Gutiérrez Villanueva	SECAM長官	2007/01~2009/03	←-----→																										
	José Angel del Valle Molina	SECAM長官	2009/04~	←-----→																										
1-2 プロジェクトダイレクター代行(1名)	Juan Agustín Santiago Rodríguez	SECAM研修部長	2007/8~	←-----→																										
1-3 プロジェクト支援担当(4名)	Edilser Arenas Monzón	SECAMコーディネータ	2002/9~2008/6	←-----→																										
	Ramón SALINAS RUEDA	SECAM技術分析	2007/8~	←-----→																										
	Juan Humberto Hernández Colloy	SAGARPA	2002/9~	←-----→																										
	José Arturo OLETA BARRIOS	UNACHI	2005/3~2008/6	←-----→																										
1-4 地域コーディネータ(3名)	David Trinidad Nolasco	SECAM	2008/1~2009/3	←-----→																										
	Ramiro Merida Rincon	SECAM	2009/4~2009/5	←-----→																										
	Nancy Fabiola Galdamez Hernández	SECAM	2007/1~	←-----→																										
1-5 各分野のC/P(1名)	Pablo Cesar Montoya Carrasco	SECAM	2009/4~	←-----→																										
1-6 管理運営職員(秘書、運転手)	Rita Mortera	秘書	2003/07~2006/12	←-----→																										
	Nancy Fabiola Galdamez Hernandez	秘書	2007/01~2009/05	←-----→																										
	Vicente Gonzalez	運転手	2003/12~2007/12	←-----→																										
	Fernando Villarovo Castillo	運転手	2008/07~2009/02	←-----→																										
	Jose Esteban Albillo Petriz	運転手	2009/07~	←-----→																										
2. 施設																														
SAGARPA事務所の一室																														
3. ローカルコスト																														
	年度	項目	金額(ペソ)																											
	2006年	人件費、車両関係費、物品費、その他	311,721.00	[Bar chart]																										
	2007年	人件費、車両関係費、物品費、その他	675,614.00	[Bar chart]																										
	2008年	人件費、車両関係費、物品費、その他	693,746.00	[Bar chart]																										
	2009年	人件費、車両関係費、物品費、その他(予定)	800,000.00	[Bar chart]																										
	合計		2,481,081.00	[Bar chart]																										

成果実績

	年 月	2006					2007					2008					2009													
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
実施期間:2006年9月20日～2009年9月19日(3年間)		[Gantt chart showing implementation period from Sep 2006 to Sep 2009]																												
セミナー実施実績																														
1. PAPROSOC主催																														
2006年度	16CDRの能力開発研修	8日間×1回	[Gantt chart for 2006: 8 days in Sep]																											
2007年度	16CDRの能力開発研修	1日間×1回	[Gantt chart for 2007: 1 day in Jan]																											
2008年度	16CDRの能力開発研修	1日間×1回	[Gantt chart for 2008: 1 day in Feb]																											
2008年度	UNACH学生に対する講義		[Gantt chart for 2008: 1 day in Jun]																											
2008年度	16CDRの能力開発研修	3日間×1回	[Gantt chart for 2008: 3 days in Jul]																											
2009年度	コスタリカへ先進地視察研修	6日間×1回	[Gantt chart for 2009: 6 days in Oct]																											
2. 参加研修																														
2006年			[Gantt chart for 2006: 1 day in Sep]																											
2007年		3回	[Gantt chart for 2007: 3 days in Jan, Feb, Mar]																											
2008年		7回	[Gantt chart for 2008: 7 days in Jun, Jul, Aug, Sep, Oct, Nov, Dec]																											
2009年		1回	[Gantt chart for 2009: 1 day in Sep]																											

添付 7 主要面談者リスト

在メキシコ日本国大使館

尾原 博志 二等書記官

国際協力機構メキシコ事務所

室澤 智史 所長

石橋 匡 所員

Raquel Verduzco Dávila 所員

PAPROSOC-2 プロジェクト

埜 暢昭 チーフアドバイザー/組織運営

和田 彩矢子 業務調整/農村開発

Nancy Fabiola Galdamez Hernández 地域コーディネーター

Pablo Cesar Montoya Carrasco オペレーションチーフ

Juan Humberto Hernández Colloy SAGARPA アドバイザー

Adiel Santiago Orosco JICA 雇用スタッフ

José Esteban Albillo Petriz 運転手

農牧農村開発漁業食糧省 (SAGARPA)

Roberto Cedeño Sánchez 地域プログラム・農村組織総局長

José de Jesús Romo Santos 農村開発支援総局長

Juan de Dios del Castillo Toledo 専門業務提供強化局長

Jorge Ventura Aquino チアパス州政府代表

Eulalio Fernández Bello 前ソコヌスコ地域支局長

Fortunato Urtuzuastegui Ibarra 新ソコヌスコ地域支局長

チアパス州農村開発局 (SECAM)

Juan Agustín Santiago Rodríguez 研修部長

Daniel Alejandro López Sánchez 研修部主任

Ramón Salinas Rueda 技術分析官

José Guillermo Toledo Moguel 小規模農民資材支援プログラム (CODECOA) 総局長

Lucy Elizabeth Ruiz Grajales CODECOA 職員

Francisco Javier García Ferro SECAM ソコヌスコ地域支局長

チアパス州南部国境地域開発局 (SDFS)

Gustavo Gutiérrez Contreras 国際協力移住者配慮次官 (SEDESO 次官に転籍)

Juan Carlos López Rojas 国際協力移住者配慮局国内国際協力部

民間

David Trinidad Nolasco 農牧分野サービスアドバイザー (元 C/P)

持続的農村開発審議会 (CDDRS、CMDRS)

Ernesto Aceves Chimal ソコヌスコ管区持続的農村開発審議会アドバイザー

Maria del Rosario Concilco Alberto Acacoyagua 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Enrique Ventura Ovalle Acapetahua 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Salvador Maza Betancourth Cacahoatán 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Gloria Miriam Rodríguez Méndez Escuintla 市持続的農村開発審議会アドバイザー

José Manuel Aguirre Chanona Frontera Hidalgo 市持続的農村開発審議会アドバイザー

David Vázquez Ramírez Huehuetán 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Fredy Bernabe Camposeco Silvestre Huixtla 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Juan Sergio Cansino Rabanales Metapa de Domínguez 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Orlando Olaldes Paz Suchiate 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Alfredo Vázquez Tapachula 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Laura Negron Bonilla Tuxtla Chico 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Júpiter Domínguez Bellizo Tuzantán 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Carmen Viviana Rincón Meléndez Unión Juárez 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Analilia Hernández López Villa Comaltitlán 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Lucina Nolasco Hipolito Mazatán 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Acapetahua 市

Fernando Zarate Julián 農牧振興課長

Enrique Ventura Ovalle 持続的農村開発審議会アドバイザー

Acapetahua 市 Laguna Seca パイロット集落住民

Maria de Lourdes González Luis グループ代表

Araceli Ramírez Escobar グループメンバー

Daniel Huerta Contreras グループメンバー

Villa Comaltitlan 市

José Pascual Coello Castillo 市長
Carlos Sergio Galdamez Culebro 農牧振興課長
Aureliano Osorio Morales 市会議員
Fernando Cruz Ruiz 市会議員
Carlos Gómez López 農牧振興課職員
Analilia Hernández López 持続的農村開発審議会アドバイザー

Villa Comaltitlan 市 Escobo パイロット集落住民

Juan Jacobo Torrez Yeexon グループ代表
Enoc Sánchez 集落長

Huixtla 市

Margarita Moreno 農牧振興課長
Samuel Torre Antonio 市会議員
Carlos Utila Hernández 市会議員
Raúl Flore Cachón プロジェクト・コーディネーター
César A. López Damián 法務顧問
Carlos Gómez López 農牧振興課職員
Fredy Bernabé Camposeco Silvestre 持続的農村開発審議会アドバイザー

Huixtla 市 Delicias パイロット集落住民

Armando Rojas Blas グループ代表
Maria Antonia Sáncleoz グループメンバー

Mapastepec 市

Jorge I. Farrera Ventura 市会議員
Maria Esther Aguilar 農牧振興課職員
Marcos Antonio Zavala Ramos 持続的農村開発審議会アドバイザー

Mapastepec 市 Pantaleon Dominguez パイロット集落住民 5 名

Ismael A. Escalante Morales グループ代表
Cirila Hernández Rodríguez グループメンバー
Mercedes Garcías Roblero グループメンバー

Acacoyagua 市

Galileo Komukai Matsui 市長
Enoc Garcia Komukai 農牧振興課長

Dory Morales Díaz 農牧振興課職員

Elías Antonio Tolles 経理課職員

Maria del Rosario Concilco Alberto 持続的農村開発審議会アドバイザー

Acacoyagua 市 Amate パイロット集落住民 3 名

Silveria Hernández To. グループ代表

Maria Carmela Hernández Al. グループメンバー

Rosa Maria Hernández A. グループメンバー

Acacoyagua 市 El Castaño パイロット集落住民 4 名

Pablo Antonio Antonio グループ代表

Joel Salgado Girón グループメンバー

Tuzantan 市

Júpiter Domínguez Bellizo 持続的農村開発審議会アドバイザー

Tuzantan 市 GuadalupeVictoria パイロット集落住民 26 名

Geremias López Pérez グループ代表

Leonel de León Pérez グループメンバー

Lesbia Carvajal Chongo グループメンバー

Cacahuatan 市

Alfredo de Jesús Días Escobar 農牧振興課コーディネーター

Cacahuatan 市 El Platanar パイロット集落住民 23 名

Aquilina Pérez Ortiz グループ代表

JCC 参加者リスト

Juan Agustín Santiago Rodríguez	SECAM 研修部長
José Guillermo Toledo Moguel	小規模農民資材支援プログラム (CODECOA) 総局長
Lucy Elizabeth Ruiz Grajales	CODECOA 職員
Francisco Javier García Ferro	SECAM ソコヌスコ地域支局長
Fortunato Urtuzuastegui Ibarra	新 SAGARPA ソコヌスコ地域支局長
Jorge Arturo Luna Lujano	SECAM 農村開発次官
Luis Alberto Rodríguez	観光・国際関係局次官
Manlio Moguel Flores	観光・国際関係局アドバイザー
Esteban Sánchez Martines	UNACH CEAyE
Juan Bernardo Orozco Sánchez	SAGARPA 本部外交調整部
Gabriela San Cristóbal	SEDESOL 支局地域コーディネーター
Alexander Pérez Miceli	SAGARPA 植物衛生プログラム課長
Edgar Mendoza Tapia	SDFS ディレクター
Gustavo Gutiérrez	SEDESO 次官
Rodolfo Francisco Briones R.	漁業局支局長
Oscar Balboa Reyes	Metapa de Dominguez 市長
Oswaldo García Solís	Tuxtla chico 市長
Ángel Galileo Komukai Matsui	Acacoyagua 市長
Jaime Antonio Valiente Chiu	Union Juarez 市長
Alexander Domínguez López	Tuzantan 市農牧振興課長
Quintín Orozco Pérez	Cacahuatan 市農牧振興課長補佐
Jorge I. Farrera Ventura	Mapastepec 市助役
Margarita Moreno Soto	Huixtla 市農牧漁業課長
Enoch García Komukai	Escuintla 市長代理
Rosario López Valenzuela	Mazatan 市助役
Alberto García V.	Huehuetan 市社会部職員
Fernando Zarate Julián	Acapetahua 市農牧振興課長
Clemente Estudillo B.	Acapetahua 市助役
Luis Daniel Valiente Bautista	Suchiate 市農牧振興課次長
Ernesto Aceves Chimal	ソコヌスコ地域持続的農村開発審議会アドバイザー
Ma. del Rosario Concilco Alberto	Acacoyagua 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Enrique Ventura Ovalle	Acapetahua 市持続的農村開発審議会アドバイザー

Salvador Maza Betancourth	Cacahoatán 市持続的農村開発審議会アドバイザー
José Manuel Aguirre Chanona	Frontera Hidalgo 市持続的農村開発審議会アドバイザー
David Vázquez Ramírez	Huehuetán 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Fredy Bernabe Camposeco Silvestre	Huixtla 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Juan Sergio Cansino Rabanales	Metapa de Domínguez 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Orlando Olaldes Paz	Suchiate 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Alfredo Vázquez	Tapachula 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Laura Negron Bonilla	Tuxtla Chico 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Júpiter Domínguez Bellizo	Tuzantán 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Carmen Viviana Rincón Meléndez	Unión Juárez 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Analilia Hernández López	Villa Comaltitlán 市持続的農村開発審議会アドバイザー
Lucina Nolasco Hipolito	Mazatán 市持続的農村開発審議会アドバイザー
米崎紀夫	JICA 調査団長
清家政信	JICA 調査団員/農村開発
磯貝白日	JICA 調査団員/協力企画
野崎裕	JICA 調査団員/評価分析
鈴木恵子	JICA 調査団通訳
Raquel Verduzco Dávila	JICA メキシコ事務所職員
塙暢昭	PAPROSOC-2 チーフアドバイザー/組織運営
和田彩矢子	PAPROSOC-2 業務調整/農村開発
Nancy Fabiola Galdamez Hernández	PAPROSOC-2 地域コーディネーター
Pablo Cesar Montoya Carrasco	PAPROSOC-2 オペレーションチーフ
Juan Humberto Hernández Colloy	PAPROSOC-2 SAGARPA 職員
Adiel Santiago Orosco	PAPROSOC-2 JICA 雇用スタッフ
José Esteban Albillo Petriz	PAPROSOC-2 運転手